

## マックス・E・アマンの 世界馬術界展望

マックス・E・アマン氏は政治ジャーナリストから馬術界に転身し、障害飛越のワールドカップを創設しオーガナイズするなど馬術界に多大な貢献をしてきた人物だ。そのアマン氏が、世界の馬術界の過去から現在までの話題を縦横に語る。

text: Max E. Ammann design: DynamiteBrothersSyndicate  
translation: Yoshihiro Sugita(本誌)

# 障害馬の 価格の高騰 どこまで続く

これは1951年のことになった。私はある馬術関連の刊行物でサーカスローズという障害馬が3万ドルで売られたという記事を見つけた。この6歳馬を買った会社は翌52年のヘルシンキオリンピックでこの馬が活躍することを期待してアメリカ馬術連盟に提供したのだ。この会社はバドワイザーで知られるビール醸造会社、アンハイザー・ブッシュで、この購入した馬をミス・バドワイザーと名付けた。52年のヘルシンキオリンピックで、アーサー・マツカシンが騎乗し、アメリカチームは銅メダルを手にした。

15年後、ニューヨークで海外特派員として働いていた私はアメリカの障害チームがCHIOアーヘンを含むヨーロッパでの競技会を転戦する話題を記事にした。その中でジャックス・オア・ベターという名の馬をある資産家が10万ドルで購入し、このチームにプレゼントしたことについて書いた。

アーヘンにおいて、この金額は新聞のトップニュースとして一面を飾り、「10万ドルの馬がアーヘンに出場」というヘッドラインが躍った。結果としてこれは有意義な投資だった。ニール・シャピロが騎乗したジャックス・オア・ベターはアーヘンのグランプリで優勝したのだ。

1970年代になると障害馬の値段はさらに高くなっていった。72年4月、障害飛越の国際的なライダーを目指していたオランダの億万長者、レオン・メルヒオールはデレック・リケッツが騎乗していた8歳のポッシュプリムを9万ポンドで購入した。これは当時の米ドルであれば15万ドルに換算される金額だ。

これほどの金額になると賞金で賄える金額を超えている。ポッシュプリムが他のどの馬より勝星を獲得してさえもだ。70年代半ばのメジャーなヨーロッパのCSIIOまたはCSIの競技会のグランプリの優勝賞金は1万ドルに満たなかった。

1978年に障害飛越のワールドカップが導入されるに至り賞金額が高くなった。しかし、その金額を超えて馬の値段が高騰した。これはきわめて皮肉な現象だ。なぜならトップライダーの多くが馬のデューラーを兼ねているからだ。彼らは馬を売ることによって利益を得たり、仲介役としてその販売額に従って仲介料を稼いでいるのだ。

いかに成功したライダーといえど、賞金額だけで競技を続けることはできない。厩舎経営はそれほどこに出費が多い。ルドガー・ピアバウムやステイブ・ゲルダなどはおそらくトレニング用の馬を20頭は抱えているだろう。そして馬運車を3、4台持ち、スタッフに給料を払っている。こうした給料や経費は賞金だけでは不十分なのだ。馬の売買から得る利益と馬のオーナーからの経済的なサポート、企業のスポンサーなどがつくことで健全な厩舎経営が可能なのだ。グランプリの賞金が100万ドルという高額の競技会が存在する今でもこの状況は変わらない。

世紀が移り、ウィリ・メリガールのカルヴァアロは2、300万ドルで売れるだろうと言われている。ウィリはトップライダーのトレ

ナーであり、馬のデューラーとしても広く知られており、賢明にもカルヴァアロを売らずにいる。

馬の値段の金額として昨年大きな話題があった。10歳のフランス産のせん馬、パロウベ・ハロンは昨年のアーヘンのグランプリでスイスの若手ライダー、ジャンカ・スプランガーが騎乗し2位となった。このパロウベ・ハロンをオランダのホースデューラー、ヤン・トップスが1100万ユーロ(およそ1500万ドル)で購入した。ヤン・トップスは世界のトップライダーのひとり、オーストラリア出身のエドウィナ・アレクサンダーの夫だ。そこで、誰もがこの馬をエドウィナが乗るものばかり



2000年のシドニーオリンピックでのウィリ・メリガール騎乗のカルヴァアロ。©Kit Houghton



2013年のアーヘンで2位となったジャンカ・スプランガー騎乗の  
パロウベ・ハロン。© Chikako Okazaki(United Photo Press)

#### マックス・E・アマン

1938年、スイス生まれ。1964年に渡米し  
ニューヨークの国連本部詰め外国人特派員と  
して主に政治関係のジャーナリストとして活  
躍。69年に『スイス・アメリカン・レビュー』  
紙の編集長に就任。73年にスイスに帰国し、  
『ルツェルン新聞』に編集長として迎えられ  
る。そのかわら、馬術競技観戦が趣味だっ  
たことから馬術関連の記事も手掛け、翌74  
年に国際馬術ジャーナリスト連盟 (IAEJ) の  
会長に就任。78年新聞社を退社、以降、馬  
術のさまざまな大会でディレクターを務めるな  
ど多大な貢献をしてきた。

ただし、カタールのアリ・ユ  
セフがどれほどヨーロッパの競技  
会でグランプリで勝ち星を挙げた  
としても、パロウベ・ハロンへの  
投資を回収する見込みはない。投  
資資金の10パーセントか、20パー  
セント回収できたら御の字だろう。

よく知られることに高額の賞金  
は一般の人の耳目を集め、そのス  
ポーツへの関心が高くなる。これ  
はテニスやゴルフで明らかであ  
り、チーム競技のサッカーやバス  
ケットボールでも同様だ。それを  
考えれば100万ドルの賞金を  
追うライダーや1800万ユーロ  
で売買される馬というトピックは  
障害飛越への関心を高める可能性  
が高い。

りと思った。しかし、ヤン・トッ  
プスはディーラーとしてカタール  
に売り、現在、アリ・ユセフ・  
アリ・ルマイヒが騎乗している。  
噂によるとトップスからカタール  
への販売価格は1800万ユーロ  
だといわれる。それが本当であれ  
ば700万ユーロの利益を得たこ  
とになる。日本円で10億円の利益  
だ！